



AKITA PREFECTURAL YOUTH CENTER

秋田県青少年交流センター広報

せりゅう

平成26年3月20日発行

第12号

〒011-0905 秋田市寺内神屋敷3-1
Tel 018-880-2303 Fax 018-847-6350
e-mail youthpal@tkcnet.ne.jp
url http://homepage2.nifty.com/youthpal/

「青少年のための事業を主催して」



秋田県青少年交流センター
所長 三浦善治
(指定管理者: 一般財団法人秋田県青年会館理事長)

厳しい冬に終わりを告げ、春の息吹が感じられる季節となり、当センター裏手の「希望の丘」の木々の芽も膨らんできました。周辺に植えられている梅、桜の開花が待ち遠しく思われます。日ごろ、当センターの運営について、ご理解ご協力をいただきありがとうございます。青少年教育振興のために青少年を対象とした様々な研修を行うとともに、青少年団体の活動拠点として交流の機会を提供し、県民の様々な生涯学習の場として広く活用されることを目的としていることを念頭に、県教育庁生涯学習課のご指導のもと、今年度の主催事業を運営してきました。重点目標として、「青少年の自立につながる社会参加活動の推進」「児童生徒の学校教育外活動の支援」「県内高校生の国際交流支援」「青少年や地域の人々に対する活動成果発表の機会の提供」等を掲げましたが、多くの幼・保育園児、中学生、高校生、大学生、専修学校生、青年及び県民にご活用いただきましたこと、心より感謝申し上げます。特に、韓国平澤市青少年文化センターとの国際交流事業が3年目を迎えた今年度、高校生の相互交流が定着したと感じられます。また、韓国寧越郡青少年日本(秋田)文化体験プロジェクトの受け入れが2年目となりましたが、寧越郡の高校生と県内高校生との交流が実り多いものとなりました。また、ユースフェスティバルでは、青少年団体・特別支援学校・県教育機関の紹介展示、地元寺内小学校の絵画展示、地域の方々の作品展、朝市(農業高校の農産物販売、海洋少年団の海産物販売)、アウトドアチャレンジの他、小学生・高校生・一般の方々の活動発表に多くの県民の皆様にお出でいただきました。今後も研修事業内容の充実に努めてまいりたいと考えております。さて、以下に、今年度の主催事業のご報告、セカンドスクールの利用状況及び利用メニュー、また、平成26年度の主催事業一覧を紹介いたしますので、ご高覧ください。

今年度の主催事業から

高校生徒会交流会議



5月24日(金)～25(土)、青少年交流センターにおいて1泊2日の日程で実施しました。県内20高校から42人の生徒会役員が参加しました。実行委員の進行によるアイスブレイクや、グループワーク「ブロックモデル」、CHR「匠の里」が行われました。また、フリートーキング①では、「生徒会活動について～組織や運営等～」、「ボランティア活動について」、「私たちが守っていききたい学校の伝統について」、フリートーキング②では「学校行事の運営について～開催時期やあり方について」、「学校紹介について」をテーマに活発な話し合いが行われました。参加者からは、「色々な人が話しかけてくれて、それをきっかけに自分から話しかける勇氣が持てました」「自分の高校について気付いていなかったことに気付いたので、自分の高校のことを深く知ることができてよかった。」「学校のためにも自分のためにも良い交流会議であったと感じます。学んだ点をどんどん取り入れて、これからの生徒会活動に活かさなければ意味がないので、きちんと努力します。」「実業高校について知らないことが多く、高校生のうちに多くの資格を取得することに驚き、刺激を受けました。」「様々な意見を聞くことができたし、何よりもたくさんの人と友達になれたことが良かった。来年もぜひ参加したい。」「積極的に発言したり、様々な問題点に対して改善点をすぐに出したりする人がたくさんいます」と思いました。「実行委員もやりがいがありそうで少し興味がわきました。」「みんなで協力し合うことの大切さがわかり、大いに刺激を受けました。」等の意見が出されました。参加者のほとんどが満足してくれた研修会となりました。なお、5校7名の実行委員の献身的な活動に感謝します。



ユースボランティア交流会



7月6日(土)～7日(日)に1泊2日の日程で、岩城少年自然の家を会場に、開催した。参加者は、大学生20名であり、これに講師4名、スタッフ7名(秋田県青少年交流センター3、岩城少年自然の家4)が加わった。

1日目は、開会式、ベトナムメイク講習の後、プロジェクトアドベンチャーを行った。雨天だったため、会場が急遽野外から体育館に変更された。プログラムは、フルーツバスケット、キャッチ、ビート、前後左右、ヒューマンチェア、ニトロクロッシング(島わたり)、パイプラインと盛りだくさんであった。仲間との「信頼」や「協力」を体感し、コミュニケーションが深まっていった。この後、グループごとに野外炊飯を行った。ご飯は、日本赤十字社秋田県支部の竹澤雄基氏のご指導のもと、災害用移動炊飯器を使用して炊き上げ、別に作ったカレーライスを味わった。辺りが暗くなり、キャンドルサービス交流会が、秋田県キャンプ協会のご協力のもと行われた。厳かな始まりの儀式の後、交歓の集いで、自己・他己紹介、ブタ・ブタ小屋遊び、ジャンボじゃんけん、二人でじゃんけん、もしもし亀よ亀さんよ、みんな友だちだすてきな人を見つけよう、踊るポンポコリン、同じ血液型の人集まれ、ジェスチャーで誕生日並び等のゲームを通して、交流が深まっていった。終わりの儀式の後、情報交流会で活動紹介が行われた。

2日目、ノースアジア大学赤十字奉仕団の田川息吹くんから「被災地における活動体験」の発表があった。この後、竹澤氏を講師に「緊急時の応急手当、救急救命法」についての実習が行われた。閉会式では、秋田大学ひだまりの会の新屋敷くんから「様々な人と出会えた」、聖園学園短期大学の斎藤さんから「充実した2日間で交流を深められた」との感想をいただいた。

青少年国際交流

(第1期:韓国・平澤市青少年文化センター「韓中日国際交流キャンプ」参加)



「青少年相互交流協定」が締結され、第3回目(木)の交流で、7月25日(木)～29日(月)の4泊5日の日程で実施した。参加生徒は12校、12名でした。韓国・平澤市、中国・寧波市の高校生、日本・青森市、松山市の中学生の5団体が参加した国際交流でした。1日目、秋田空港を出発し、仁川空港に到着。宿泊先である平澤大学校に向かった。2日目朝、パートナーと対面、舞鳳山青少年修練院での陶芸体験で、お互いに打ち解けてきた。その後、パートナーと一緒にソウル市内を探訪した。仁寺洞、ロッテワールドを回り、パートナー同士の美しい笑顔がみられた。3日目、キャンプが始まった。歓迎式、韓国伝統音楽演奏・ダンス・テコンドーで歓迎された後、各団体の出し物の番となった。秋田は、全員でK-POPダンスを披露した。その後、ハヌルタンビヤルタン、ユッノリ等の韓国伝統遊び、韓服の着付けを楽しんだ。夕方、ホストファミリーと出会いホームステイをした。4日目、15時まで平澤市青少年文化センターに集合し、祈願風灯作り・上げ、登録無形文化財ウツタリ農楽鑑賞の後、秋田・中国寧波市合同送別会が行われた。韓国パートナーの思いやり・やさしさが伝わってきた。予定をオーバーするも、いよいよお別れです。パートナーとハグして別れを惜しみ、8月の秋田での再会を誓っていた。5日目、早朝平澤大学校国際館を出発し、帰国の途についた。



青少年国際交流

(第2期:韓国 平澤市の高校生の受け入れ)



韓国訪問から10日後、パートナー12名が秋田を訪問し、8月8日(木)～12日(月)の5日間、交流を深めた。1日目、国際教養大学訪問、秋田県教育委員会表敬訪問の後、平澤市の高校生12名は、秋田和洋女子高校郷土文化部指導による「秋田民謡」を体験し、踊りと楽器演奏を楽しんだ。2日目、大曲農業高校にて、「学校紹介」「郷土芸能鑑賞」「葉菜美ピザ・ブドウジャム・箸入れ折り紙作り体験」をした。大曲農業高校の生徒のおもてなしに、感激していた。昼、秋田のパートナーと再会し、角館武家屋敷「石黒家」、安藤醸造元を見学したが、急な豪雨のため田沢湖に行けなかったのを残念がっていた。この後、秋田温泉体験をした後、平澤市と秋田の高校生が秋田県青少年交流センターに宿泊し、交流を深めた。3日目、午前中秋田県立博物館で見学・たみ染めを体験した後、秋田のパートナー宅へのホームステイに出発した。4日目、15時までに秋田県青少年交流センターに戻った。ここで、パートナーと泣く泣く別れることになった。そして、通訳ボランティアと一緒に「なかいち」から「秋田駅周辺」を探索した。この日の夜は、高校生ヤートセグループ「闘心乱華」と「お盆行事体験(灯籠づくり)」「ヤートセ体験」をした。闘心乱華メンバーと一緒に、「うらじゃ音頭」を踊り、楽しい一時を過ごした。5日目、最終日平澤市の高校生一人一人に活動修了証が渡され、パートナーの見送りのもと秋田空港から帰国の途についた。



ユースフェスティバル



10月5日(土)～6日(日)、青少年や青少年団体に実践活動や発表の機会を提供し、お互いに交流を深めるとともに、地域の方々にユースパルの施設を開放するという目的で、「ユースフェスティバル(ユースパルまつり)～今、青少年交流センターが熱い!～」が開催された。参加者は、スタッフを含めて2,010人であった。ユースパルでは、県内青少年団体・教育施設・特別支援学校等の活動/パネル展示、寺内小学校「絵画展」、寺内・八橋地区「盆栽・生け花・写真・絵画展」、体験活動(アウトドアチャレンジ)、園芸教室「観葉植物の寄せ植え」、囲碁教室・対抗戦、ブレイランド、大抽選会、ユースパル朝市(金農・大農、海洋少年団)、フリーマーケット、屋台村、大浴場一般開放、無料休憩場等が館内外で賑やかに行われた。イオンモール秋田店セントラルコートでは、アトラクション(和洋高校の秋田民謡、ヤートセ、合唱、K-POPダンス、タップダンス、カポエイラ、フラダンス、フォークデュオ)が行われ、多くの観客で賑わった。今後も、青少年の活動発表を支え続けていきたい。



なまはげキャンパ メインキャンパ編



9月13日(金)～15日(日)に2泊3日の日程で、開催された。1日目(岩城少年自然の家)、13時30分からの開講式後、自己紹介、アイスブレイク、プロジェクトアドベンチャー(ジャイアントシーソー、コロロッキング)が行われた。夕食(飯ごうごはん、カレーライス)後、コミュニケーショントレーニングⅠ【「お互いを知ろう」～①ジャンケンポン、あんたが勝ちバイ ②ジャンケンポン、あいこでホイ】、ワールドカフェ【1日の振り返りと明日の抱負】が行われ、お互いに打ち解けてきた。2日目、6時30分のラジオ体操から始まった。朝食(飯ごうごはん、野菜炒め他)、9時30分に大仙市大沢郷に向けて出発、百笑村で農業体験(加工用トマトの収穫・調整)・自然体験(野外で昼食弁当、ハンモック、ブランコ、丸太先陣争いゲーム等)をした。自然を十分満喫できました。会場を秋田県青少年交流センターに移し、夕食後、秋田合唱団と一緒に合唱体験をした。「見上げてごらん夜の星を」、大きな声で歌うことができた。その後、コミュニケーショントレーニングⅡ【今日1日で印象に残った事、ジャンケン私は誰】、ワールドカフェ【しゃべり場～「1日の体験を振り返る」】で締めくくった。3日目、ラジオ体操、チェックアウトの後、10時からまとめ(「楽しかったこと」「学べたこと」「チャレンジしたこと」)を行った。そして、参加の感想を述べ合った。最後に、閉講式、集合写真撮影で全日程が終了した。そして、ウインター編での再会を誓った。



対人関係能力向上セミナー「ユースパル夜学塾」



9月18日(水)～21日(土)、青少年交流センターで実施した。3日目までは夜7時から9時まで講座を行い、その後は、自由交流・情報交換交流の時間とした。最終日は、午前9時30分から12時までの日程であった。参加者は、スタッフを含めて7名でした。1日目、青少年交流センタースタッフの進行による「アイスブレイク・問題解決プログラム」で始まった。「キャッチ」、「私は何でしょう?」、「ブロックモデル」及びCHR研修「タップ・ロット」を行った。2日目、(株)プレステージ ヒューマンソリューションの清水留美氏を講師に「職場のマナー基本講座」を実施した。内容は、第一印象、挨拶の仕方、言葉の使い方、電話対応のポイント等であった。3日目、NPO法人あきたNPOコアセンターの吉田理紗氏を講師に「青年夜会議」を実施した。「コミュニケーションはおもしろい!～関係性からみえてくる“わたし”」と題して、コミュニケーションの能力とスキルの違い、能力は自分で育てていくことを学んだ。4日目、前日に引き続き吉田理紗氏を講師に「青年ワークショップ」を実施し、「良い人間関係について」、「人生の楽しみ・生きがい」について話し合った。「4日間楽しかった」、「来年の参加者アップに協力します」、「会社でアイスブレイクで行ったキャッチをやりました。楽しかったです。」、「コミュニケーションは苦手だったが、いろんな人と話をして自分も変わっていきたい」等の感想があった。

なまはげキャンパウィンター編



1月10日(金)～12日(日)の日程で、今年度2回目のなまはげキャンパが開催された。ウィンター編である。1日目は岩城少年自然の家で、プロジェクトアドベンチャー(インパルス、サムライ、あやとり、情報戦争、せいの!)の後、食材買い出し・自炊活動、コミュニケーショントレーニング①(無言情報伝達ゲーム、時間経過判断ゲーム、ジェスチャー情報伝達ゲーム等)とプログラムが進み、初めての参加者も和やかな顔になっていた。2日目、ラジオ体操、朝食(自炊)の後、会場を秋田県青少年交流センターに移し、雪合戦体験を行った。雪の上を走り回るので、大変疲れたようであるが、とても楽しかったとの声がたくさん聞かれた。午後、「花は咲く」のレコーディングのための練習、コミュニケーショントレーニング②(一方向、双方向での情報伝達について)を行った。夕食後、いよいよ「花は咲く」のレコーディングの時間となった。4グループに別れ、それぞれのパートを歌い、それらをつなぎ合わせた合作である。やり直しは何回もあり、予定時間を大幅にオーバーしたが、無事終了した。出来上がりを楽しみである。21:00から「しゃべり場ワールドカフェ」が行われた。参加者の深川純一さんの進行で、「今日の振り返り」について、グループ単位で話し合い、最後には各グループの代表が発表した。3日目、ラジオ体操、朝食、チェックアウトの後、10:00から昨日までのプログラムの写真を見ながら、まとめと感想発表があった。出会いがあり、プログラム内容も多彩で、参加して良かったとの声が多かった。この後、全員が巨大な紙に「無言絵」を書き上げた。これが、今キャンプの成果となった。



高校生リーダー養成「ニューリーダーセミナー」



2月21日(金)～22日(土)に1泊2日の日程で開催された。参加生徒は、県内 18校から46名(男子23名、女子23名)であった。1日目は、開講式の後、アイスブレイク(スクリーム、後ろからジェスチャーゲーム、前後左右)が行われた。初めて出会った他校生徒と打ち解けて行動していた。この後、CHR研修「バスは待ってくれない」を実施した。7つのグループに分かれて、与えられた課題の解決のため、お互いにコミュニケーション能力の向上に努めた。次に、分科会①「私たちと学校」が行われた。理想の学校を作り上げていくロールプレイに興味津々であった。チェックイン・夕食後、韓国寧越郡の高校生が加わって、国際交流会が行われた。アイスブレイク(シャッフル、手遊び)の後、韓国の高校生がK-POPダンス披露してくれた。県内の高校生は大盛り上がりで、声を大にしてアンコールを望み、韓国の高校生はこれに応えていた。この後、大館工業高校及び由利高校の学校紹介、寧越郡の紹介・韓国の高校生活についてプレゼンテーションが行われた。この後は、自由交流の時間とし、多目的ホールではバスケットボール、バレーボール、バドミントン等のスポーツ交流、大広間では韓国文化体験(韓服・ユッソリ)・語らいの場となった。2日目、分科会②が行われた。「私たちと地域」について、グループごとに話し合った。閉講式では、増田高校の木村さんと秋田北鷹高校の伊藤さんに感想発表をもらった。参加アンケートには、「分科会では、学校と地域について深く考えることができたし、想像するのが楽しかった。」、「演習が難しかったが、とてもおもしろかった。課題達成には仲間の協力が必要で、効果的な材料だと思った。」、「国際交流にとっても刺激を受けました。このような機会があまりないので、よい経験になりました。」、「以前参加したものよりもパワーアップした内容で、充実した時間が過ごせた。」等の声が聞かれた。

青少年の居場所づくり「ゆうスペースAKITA」



- ・5月12日(日)「お花見会」(ハーベキュー)(参加者:13名、スタッフ:11名)
- ・11月10日(日)「秋のなべっこ」(参加者:11名、スタッフ:10名)
- ・11月30日(土)「炭焼き窯あげ」(県立大学)(参加者5名、スタッフ:3名)

- ・2月2日(日)「新春のつどい」(書き初め、のつけ丼・お雑煮)
(参加者8名、スタッフ:13名)



※ 毎週水曜日:コーチが「ゆうスペース」にいます。
他の曜日にも、コーチがいる時があります。

韓国寧越郡高校生日本文化体験プロジェクト (海外青少年の交流訪問 受入)



2月20日(木)~24日(月)、韓国寧越郡の高校生17名が日本文化体験・高校生交流のため秋田を訪問した。昨年に引き続き2回目である。多くの方々のご協力のもと、実施された。1日目、秋田市内の裏千家淡交会 一戸宗津さんの茶室にて、「茶道体験」を行った。歓迎夕食会の後、2/22の秋田市内グループ別活動の計画を立てた。2日目午前中、秋田県立博物館を訪問し、たたみ染め・イタヤ馬づくり体験の後、館内展示室を見学した。午後、秋田西高校を訪問し、歓迎レセプションの後、音楽、美術、体育の授業に参加した。その後、情報交換会となり、秋田西高校の学校紹介、韓国寧越郡の高校生による「韓国寧越郡の紹介」「韓国の高校生活」についての発表があった。次に、4グループに分かれて交流会が行われた。「ふくわらい、K・Jポップ、アニメーション、かるた」で楽しんで来た。そして、部活動(書道・吹奏楽)見学となった。最後に、寧越郡の高校生全員がK-POPダンスを披露した後、記念集合写真を撮ってお別れとなった。夕食後、県内18校46名の高校生が参加した「ニューリーダーセミナー」に合流した。アイスブレイク、コミュニケーションゲーム、K-POPダンス披露の後、大館工業高校・由利高校の学校紹介、寧越郡の紹介・韓国の高校生活紹介を行った。終了後の自由交流では、多目的ホールでのスポーツ交流の他、和室で韓服体験・ユツリ・語らい交流が展開された。3日目、2グループに分かれて秋田市内を探索した。市場、美術館、神社、千秋公園等を見学したり、秋田駅近辺でインタビューするグループもいた。夕食後、秋田和洋女子高校郷土文化部との交流で、「秋田民謡体験」を行った。4日目、太平山スキー場「オーパス」でそり遊び体験をした後、自然学習センター「まんたらめ」で「きりたんぼ作り」、「かんじき遊び」を体験した。また、かまくらを見学した。大いに楽しんだ雪遊びが終わって、秋田温泉プラザに移動し、温泉を楽しんだ。夕食後、高校生ヤートセ「闘心乱華」の皆さんとヤートセ交流をした。最終日の5日目、修了式で修了証を手にし感想発表をした後、イオンモール秋田を探索した。そして、秋田空港を出発し、帰途についた。



青少年団体間交流会



12月6日(金)、青少年交流センターで実施した。8つの青少年団体11名の参加者であった。開会式で、主催者挨拶の後、参加団体の紹介があった。秋田県連合青年会、ガールスカウト秋田県連盟、日本ボーイスカウト秋田県連盟、秋田県レクリエーション協会、ひだまりファーム、ヤートセ秋田祭実行委員会、秋田キャンパスネット、一般財団法人秋田県青年会館が参加した。写真撮影の後、活動紹介並びに情報交換交流会が行われ、連携・協力していくことを確認した。

セカンドスクールの利用状況

3月10日現在のセカンドスクールの利用について報告します。

利用校(園)種	利用校数				利用人数(実数)			
	県北	中央	県南	全県	県北	中央	県南	全県
幼・保育園	0	2	0	2	0	96	0	96
小学校	0	0	0	0	0	0	0	0
中学校	17	10	7	34	2132	1216	580	3928
高等学校	0	1	0	1	0	110	0	110
特別支援学校	0	1	1	2	0	176	0	176
専修学校	0	1	1	2	0	72	80	152
計	17	15	9	41	2132	1670	660	4462

○セカンドスクールの利用とは

児童生徒が学校を離れた場所で、様々な自然体験、社会体験、共同生活体験等を行い、その活動を教科学習として授業時数にカウントできるシステムです。児童生徒の自ら学ぶ意欲や社会の変化に主体的に対応する能力(生きる力)を育むことをねらいとしています。

○青少年交流センターでは

- ①秋田市中心部に位置し、教育・研究・体育・文化施設等に近い立地条件を生かし、様々な体験活動・施設見学を行う際の拠点として最適です。
- ②学校や学年単位の利用で、教育課程に位置づけられた授業(各教科、特別活動、総合的な学習等)として実施する場合、研修室利用料金が無料となります。
- ③受け入れ研修(仲間作り活動)として、PA系ゲーム[アイスブレイキングを中心としたレクゲーム]、ニュースポーツ[キンボール、室内ベタンク]、CHR研修[コミュニケーション能力向上を図る自己啓発研修]の研修メニューがあります。実施については、当センター研修班が直接お手伝いします。

- ※PA系ゲーム……100人くらいまで 30分程度
- ※ニュースポーツ……50人くらいまで 90分程度
- ※CHR研修 ……160人くらいまで 120分程度



- ④宿泊と食事には、青少年料金が適用されるほか、マイクロバス(28人乗り)の利用(要申込)も可能です。

平成26年度 青少年交流センター主催事業一覧（予定）

学校外教育 活支援事業	高校生徒会交流会議	県内高校の生徒会役員が一堂に会し、充実した生徒会活動を推進するための情報交換を行い、生徒会のネットワークを形成します。実行委員を募集し、生徒主体の運営を目指します。	5月23日(金)～24日(土) 会場:青少年交流センター
	高校生リーダー養成 「ニューリーダーセミナー」	様々な分野の高校生リーダーが集い、充実した活動を推進するための研修と情報交換を行い、必要な資質の向上を目指します。	2月20日(金)～21日(土) 会場:青少年交流センター
	青少年国際交流 (秋田と韓国の高校生の相互交流 (秋田と中国の高校生との交流))	海外青少年との相互交流を通じて、交流先の文化や歴史を学ぶとともに国際感覚を身に付け、グローバル化に対応する青少年の育成を図ります。	7月24日(木)～28日(月) (秋田が韓国を訪問) 8月7日(木)～11日(月) (韓国が秋田を訪問)
	イングリッシュキッズプロジェクト	県内小学生を対象に、英語による体験型宿泊活動の機会を提供し、国際感覚を身に付けるために必要な素地を養う。	8月15日(金)～17日(日) 会場:青少年交流センター
青少年の自立・ 社会参加活動 支援事業	青少年団体間交流会	ユースパルに入居する団体を中心に、各青少年団体に呼びかけ、団体間の活動等の情報交換を図るとともに、連携と協力を深めます。	12月5日(金) 会場:青少年交流センター
	ユースボランティア交流会	青少年ボランティアグループの活動活性化のために、相互の交流を図るとともに、充実した活動を行うための資質の向上を図ります。	7月5日(土)～6日(日) 会場:岩城少年自然の家
	ユースフェスティバル (ユースパルまつり)	ユースパルを拠点又は利用する青少年団体や高校生、大学生等を含めた活動の成果を発表・展示する機会として行います。	8月31日(日) 会場:未定
	青少年社会参加促進特別対策事業	人付き合いが苦手だが、様々な能力や可能性を秘めた若者(青少年)に、自然体験や生活体験等を通し、社会参加を目指したきっかけを提供し、支援します。また、青少年の居場所を提供し、ボランティア団体等と協力して、相談活動等多様な活動を行い、青少年の健全育成を図ります。	なまはげきやんぷ 1月9日(金)～11日(日) ゆうスペースAKITA 通年 会場:青少年交流センター他
	対人関係能力向上セミナー 「ユースパル夜学塾」	よりよい人間関係を創っていくための方法などを体験学習を通して学び、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、職場等の枠を超えた交流を図ります。	6月11日(水)～14日(土) 会場:青少年交流センター
	市町村公民館連携事業	市町村公民館や地域社会との連携を図り、青少年や団体活動の発掘、育成をめざし年間を通して社会教育活動を展開します。	期間:年間 会場:未定
	地域青年リーダー養成	出前講座的に各地に出向き、県連合青年会が主体となり、各地域に住む青年と語り合い、青年団体の再構築を図るためのリーダー育成を支援する。	1月17日(土)～18日(日) 会場:未定